

言語処理学会ニュースレター
Vol.4 No.3 1997年5月30日

言語処理学会 (<http://www.kyutech.ac.jp/nlp/>)
担当: 中村順一 〒820 飯塚市川津 680-4
九州工業大学情報工学部
fax: 0948-29-7601,
e-mail: nakamura@ai.kyutech.ac.jp

言語処理学会事務局:
〒606-01 京都市左京区吉田本町
京都大学大学院工学研究科
電子通信工学専攻 長尾研究室内
tel: 075-753-5344, fax: 075-751-1576

内容:

自然言語処理 Vol.4 No.3 目次
特集号「音声認識・理解・合成のための日本語処理」の論文募集案内
第3回通常総会のご案内
特集号「談話・対話の言語学的、心理学的モデル」の論文募集案内 (再掲)

・自然言語処理 Vol.4, No.3 は、1997年7月10日発行予定です。目次は以下のようになっています。

・「音声認識・理解・合成のための日本語処理」の特集号を企画しております。投稿をお待ちしております。

・第3回通常総会を1997年6月13日に東京工業大学で開催いたします。なお、総会に先立ち、京大の堂下先生に招待講演をお願いしました。タイトルは「次世代の音声・言語処理研究のパラダイムは何か」です。皆様の活発な議論を期待しております。また、年次大会優秀発表賞表彰式も行います。

・「談話・対話の言語学的、心理学的モデル」の特集号を企画しております。投稿をお待ちしております。

・自然言語処理 Vol.4, No.3 目次

巻頭言

中身と外見
片桐 恭弘

論文

Generation in Machine Translation:
the right place to choose between translation equivalents
John D. Phillips

シソーラス上に動的に構成される標本空間における動詞の多義解消
内山将夫, 板橋秀一

意味的類似性と多義性解消を用いた文書検索手法
大井耕三, 隅田英一郎, 飯田仁

確率的言語モデルに基づく多言語コーパスからの言語系統樹の再構築
北研二

技術資料

文字連鎖を用いた複合語同音異義語誤りの検出法とその評価
奥雅博, 松岡浩司

・特集号の論文募集案内

テーマ：
音声認識・理解・合成のための日本語処理

特集の趣旨：

音声認識・理解・合成のための手法の研究は言語に依存しない普遍的なものとして進めることが可能で、国際的にも広く成果を発信することができます。しかしながら、言語独立な部分と言語固有の部分があって、日本語を対象とする音声認識・理解・合成を高度化するためには、日本語に適した処理を考える必要があります。

例えば、音声認識のための統計的な言語モデルを構築する場合、英語であれば単に新聞記事などを集めて単語の接続を数えれば良いのかもしれませんが、対象が日本語であると、新聞記事などを集めるだけでは不十分です。単語の接続を数えるためにはまず単語ないし形態素に分割する必要があり、どんな単位にどのようにして分割するかという課題を避けて通ることはできません。

また、日本語音声合成の品質を高めるためには、音声合成に適した日本語のテキスト処理を施す必要があります。読みやアクセント、息継ぎのタイミングを考慮した日本語テキスト処理の研究と、いわゆる自然言語処理の研究は別の場所で行なわれ、これまであまり交流する機会がなかったように感じます。

そこで、この特集号では、音声認識・理解・合成のための日本語処理をテーマに取り上げます。音声研究者からは言語処理の問題と言われ、言語処理研究者からは音声固有の問題と言われ、その狭間で従来はあまり取り上げられず、発表する場のなかった話題を積極的に取り上げます。

対象領域：

日本語に適した音声認識のための統計的言語モデル
音声理解を高度化するための日本語処理手法
音声合成を高度化するための日本語処理手法
日本語の話し言葉の特徴分析とそれを扱う計算モデル
音声対話処理を高度化するための日本語処理手法
その他本特集号の趣旨からみて適切と思われるもの

投稿資格：

音声や言語に関心をもつ研究者（例えば、言語学者、国語学者、計算言語学者、心理学者、工学者、理学者）ならば出身、現在の研究分野は問いません。なお、論文は通常の査読過程を経た上で掲載の是非が決定されます。

特集編集委員：

市川 熹（千葉大学）
速水 悟（電子技術総合研究所）
竹沢寿幸（ATR 音声翻訳通信研究所）
（集まった論文の内容に応じて委員を追加する予定です）

投稿締め切り：

1998年3月31日

原稿執筆要領：

「自然言語処理」の原稿執筆案内参照。
「音声認識・理解・合成のための日本語処理」特集号への投稿であることを明記して下さい。

・第3回通常総会の案内

すでに郵送でご連絡いたしましたように、第3回通常総会を以下のように開催いたします。なお、総会に先立ち、京大の堂下先生に招待講演をお願いしました。タイトルは「次世代の音声・言語処理研究のパラダイムは何か」です。皆様の活発な議論を期待しております。また、年次大会優秀発表賞表彰式も行います。

日時：1997年6月13日（金曜）15:00-
場所：東京工業大学ベンチャービジネスラボラトリ1Fプレゼンテーション室
住所：東京都目黒区大岡山2-12-1
TEL：03-5734-3046（田中研究室）

招待講演（15:00-16:30）

次世代の音声・言語処理研究のパラダイムは何か
堂下修司先生（京都大学）

総会議題（16:30-）

1. 96年度活動報告
2. 96年度決算報告，監査報告
3. 97年度活動計画（案）
4. 97年度予算計画（案）
5. 97年度評議員構成，役員構成
6. 会則第2条（事務局所在地）の改正

・特集号の論文募集案内

テーマ：

談話・対話の言語学的、心理学的モデル

特集の趣旨：

言語の研究には、純粹に理論的に研究する立場と、何らかの応用システムを作るという立場があり得ますが、従来はとかく、両者の間の乖離が大きいことが指摘されてきました。これは、そもそも、学際的な研究を発表する場が少なく、なかなか業績として評価されにくい、というような事情もあったかもしれません。

そこで、この特集号では学際的な研究を幅広く取り上げ、また理論的研究と実用的な研究との交流を促進するために、

- (1) 応用研究の基礎としての理論的な言語研究を理論研究者から広く募る
- (2) 理論言語学プロパーな研究からは取り上げられにくいような話題、例えば、言語学者・心理学者の処理モデルの研究などを積極的に紹介する
- (3) システム作りというような実際の側面が薄くても、工学者、理学者の側からの言語学、心理学に関する基礎的な研究を取り上げる

という目的をもった号を編集したいと思います。

この特集号に採録された論文をきっかけにして真に学際的な研究がますます盛んになれば、編集委員としては望外の喜びとするところです。

対象領域：

談話分析（談話理解、談話小辞、談話構造 談話作成など；理論的な基礎研究を含む）
照応、代名詞解釈
対話理論、対話管理
Grice の協調原理、Relevance 理論、Centering
視点、敬語
その他本特集号の趣旨からみて適切と思われるもの

投稿資格：

言語に関心をもつ研究者（例えば、言語学者、国語学者、計算言語学者、心理学者、工学者、理学者）ならば出身、現在の研究分野は問いません。なお、論文は通常の査読過程を経た上で掲載の是非が決定されます。

特集編集委員：

田窪行則（九州大学）
郡司隆男（大阪大学）

(集まった論文の内容に応じて委員を追加する予定です)

投稿締め切り:

1997年9月30日

原稿執筆要領:

「自然言語処理」の原稿執筆案内参照.

「談話・対話の言語学的、心理学的モデル」特集号への投稿であることを明記して下さい。